

指導計画、指導案、学習評価をセットで提示 授業の質向上と、目標・評価の一体化を図る

岐阜県 岐阜市教育委員会

2004年度から市内すべての小学校で英語教育を実施してきた岐阜県岐阜市。同市教育委員会は、全学年の年間指導計画と毎時間の指導案を作成し、指導の平準化を図ってきた。2020年度は新学習指導要領に対応した内容に改訂。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたポイントや学習評価の計画も示し、現場の授業づくりを支えている。

岐阜県岐阜市 プロフィール

◎清流長良川と織田信長公ゆかりの岐阜城がそびえる金華山を擁した緑豊かな城下町。長良川の鶺鴒が全国的に有名。2015年4月、『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜」が、文化庁の日本遺産第1号に認定された。

人口 約40万7000人 面積 約204km²
市立園・学校数 幼稚園2園、小学校46校、中学校22校、特別支援学校1校、高校1校 児童生徒数 約3万人
電話 058-214-2193 (学校指導課)
URL <https://www.city.gifu.lg.jp/3040.htm>

自信を持って指導できるよう 子どもとの対話例も示す

岐阜県岐阜市は、2004年度、構造改革特区制度を利用し、小学1・2年生は「英語活動」、小学3～6年生は「英語科」として、小学校での英語教育を始めた。現在は、全学年で「英語科」とし、授業時数は、小学1・2年生は年間18時間、小学3・4年生は年間35時間、小学5・6年生は年間70時間を確保する(図1)。全市立小学校にEF(小学校英語指導協力員*)またはALTを配置し、小学1・2年生は全授業、小学3～6年生は全授業時数の約半分を担当とEF・ALTのチーム・ティーチングで行う。

授業は、同市教育委員会(以下、市

教委)が独自に作成する「コンパス・カリキュラム～指導と評価の計画～」(以下、CC)を基に進められる。CCは、教科書の内容に準じた年間指導計画と評価の計画、全授業時間分の授業内容・学習状況を見届ける視点などを記した指導案で、小・中学校の全学年・全教科分を作成している。学校指導課の鹿嶋成子副主査は、英語科におけるCCの意義を次のように説明する。

「市外から本市の小学校に赴任して初めて英語を指導する教員もいる中、CCを参照すればすぐに授業づくりができるようになっていきます。CCは、指導の平準化を支え、子どもが身につける英語力を保障するものです」

CCを作成するのは、「授業・評価改善委員会」の委員を務める市立小・

中学校の教員だ。英語科の場合は、小・中合同の英語科部会を開いて9年間の系統的な指導計画を立てた上で、委員が分担して指導案を作成した。

「英語を専門としていない教員や指導経験が浅い教員でも自信を持って授業ができるよう、英文



学校指導課 副主査
鹿嶋成子
かしま・せいこ

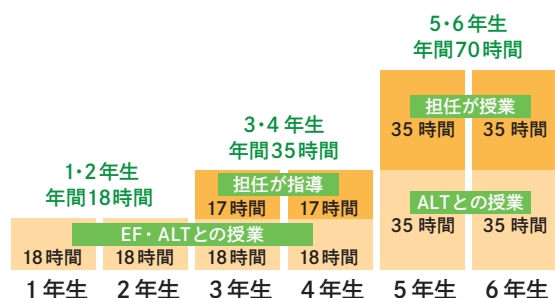
岐阜県内の公立中学校教諭を経て、2017年度から現職。

などを具体的に記載しています。例えば、好きな動物をテーマにしたスモールトークでは、“Look at this. What's this?” “These are dogs. I like dogs.” “I have 2 dogs in my house.”といった、子どもとのやり取りを例示しました。もちろんこれは一例であり、子どもの実態や授業進度に応じて、自由なアレンジを推奨しています(鹿嶋副主査)

CCは、学年ごとにまとめた冊子と、全学年分のデジタルデータを収録したDVDを各校に配布した。教員が授業で実践してよかった点や改善点を冊子に書き込んで、独自の指導計画にして活用したり、デジタルデータを利用して自校の状況に応じた独自の指導案を作成したりする学校もある。

「CCを基にEFやALTとの打ち合わせを行うなど、授業準備が効率化できたという声を、先生方から聞いています」(鹿嶋副主査)

図1 岐阜市立小学校の英語科の年間授業時数



* 岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

* 1 母語でなくても英語が堪能な市内・近隣在住の外国人を「小学校英語指導協力員」として市が雇用し、小学校に配置している。EFは、English Friendの略。

図2 「コンパス・カリキュラム～指導と評価の計画～」小学校英語科の記載項目の例

指導案	単元名	第2時/4時間
本時のねらい		
本時の評価		
特別に準備するもの		
学習活動	指導・援助	留意点・学習状況を見届ける視点
<p>1 Greeting Hello. How are you? How's the weather today? What day is it today? What's the date today?</p> <p>2 [Let's Sing]</p> <p>3 Small Talk 【テーマ】 「○○」について</p>	<p>・前時に答えることに自信がなかったり、つまずいていたりする時には、「天気」「曜日」「月」の言い方を簡単に練習する。</p> <p>【Small Talkの進め方】</p> <p>① 写真などを見ながら、教師が自分の好きなことを話す。</p> <p>② 児童のよい姿を具体的に認める。 ・表現に困った時には、言いたいことを単純に日本語にしたがら、習った英語で表現できない場合は、</p>	<p>・慣れたら係を中心に、英語で聞かせることも</p> <p>【ICT】</p> <p>【主・対・深の実現に向けて】</p> <p>※</p>
<p>4 [Do you know?]</p> <p>5 [Challenge]</p> <p>6 [Challenge]</p>		<p>【主・対・深の実現に向けて】</p> <p>※</p> <p>【学習状況を見届ける視点】</p> <p>【場面・方法】</p> <p>【 】での行動観察</p>
<p>7 Comments ・ふり起りシートを書き、発表する。 ・先生のコメントを聞く。</p> <p>8 Greeting ・あいさつをする。 Good-bye. See you next time.</p>	<p>★原簿や教師の手帳で、次のような姿を具体的に価値付けたい。</p> <p>HRP:</p> <p>ALT:</p>	<p>子どものこういった発言や姿勢を価値づけられたいかを例示</p>

ウォームアップ、メインの学習活動、振り返りまでの流れ、活動内容を例示。クラスルームイングリッシュや、子どもとのやり取りで、担任が使える英文を具体的に例示している

タブレット端末の活用法を例示

主体的な学び、対話的な学び、深い学びの手立てを例示

学習評価のうち、「学習状況を見届ける視点」を明記。「評価の計画表」と関連づけている

子どものこういった発言や姿勢を価値づけられたいかを例示

評価の計画表

単元名

単元のねらい

【単元の評価規準】

【学習評価のねらい等】

評価の手法を例示

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価規準を例示

各授業において、該当する「学習状況を見届ける観点」がある場合は「○」、「名簿に記録として残す観点」は「◎」とし、いつ、どの評価を行うかを例示

チャレンジトーク(パフォーマンステスト)の実施要項

1. 目標

・(話題)・(内容)・(表現方法)・(得意)

2. 学習指導要領との関連

・(小学校外国語活動)「話すことややり取り」や「自分のことや身の回りの物について、動作を伝えながら、自分の考えや表現を用いて伝え合うようにする。」

3. テーマ(決まらなくてもいい)

評価項目 評価

関心 意欲 態度 ◎

内容 A

内容 B

「関心・意欲・態度」は個人内評価であるため、「◎○○」で評価し、「内容」「英語の正確さ」「対話の継続」は3段階で評価。それぞれの基準を例示

*岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

パフォーマンステストの問題例や評価基準も提供

2020年度は、小学校の新学習指導要領の全面実施に伴い、小学校のCCを大幅に改訂した。年度内に各校に配布し、2021年度から運用を開始する。改訂のポイントは、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てや、学びを深めるためのICTの活用法を盛り込んだことだ(図2)。「本市では、子ども1人1台のタブレット端末の貸与が昨年9月に完了しました。今後は、子どもの学びの場面でいかにICTを活用するかが課題です。そこで、CCには、ICTを活用して新学習指導要領の趣旨を実

現する授業の具体例を明記しました。CCを通じて、ICTの活用場面と活用法を具体的にイメージできるようにすることで、英語科の活動の幅が広がり、子どもの学びが深まることが期待できます(鹿嶋副主査)

例えば、子どもがタブレット端末で思い思いに撮影した写真で、Show & Tellの活動を行う。また、スピーチの活動では、学習前と学習後のスピーチをタブレット端末で撮影して比較することで、子どもは自身の学習の成果を実感し、教員は学習評価に活用するといった具合だ。

学習評価については、単元ごとに「評価の計画表」を作成。評価規準と、授業ごとの「学習状況を見届ける観点」「名簿に記録として残す観点」及

び評価方法を示した。さらに、指導案には、「評価の計画表」で示した学習評価をどの学習活動で行うのかを記載した(図2)。

「新学習指導要領では、記録として残す評価は単元や題材のまとまりごとに行うとされていますが、多くの教員がその方法で評価をした経験がありません。そこで、英語部会で話し合っ

て学習評価の方針を決め、『評価の計画表』には、各授業において、学習評価の3観点のうちどの観点を、『学習状況を見届ける観点』や『名簿に記録として残す観点』で評価するのかを、評価の方法と合わせて一覧表にしました(鹿嶋副主査)

パフォーマンステストとして行う「チャレンジトーク」も年間指導計画

図3 「英語力アップ『岐阜モデル』」(抜粋)

技能別	目標	技能パート別	岐阜市の強み◎弱み△	自校の強み◎弱み△	意識したい指導事項	ネクストアクション(例)	2021年2月実施した指導	2021年2月効果があった指導
Listening		A 写真イラスト説明問題	◎	英語4技能検定の結果を基に、自校の強みと弱みを分析		目的や場面や状況などを明確にした、簡単なやり取りを行う 生徒に、聞いたことをレポートし、分かったことを自分の言葉で伝えることを促す 写真やイラストを用いた自由記述: 対話活動の際に、生徒に関わって自分のことを付け足して話すように促す		
		B 会話応答問題	△			目標達成に向けた具体的な指導改善を明記。各校の課題に応じたアクションの記入欄も設けている 内容に		左のアクションを実施した項目に○、実施して効果があった項目は◎をつける

Listening、Speaking、Reading、Writingの4技能について、課題を分析し、指導改善を具体的に記す。
*岐阜市教育委員会提供資料を基に編集部で作成。

の中に組み込み、実施要項と提示するテーマ、児童に渡す評価シートを作成した。実施要項には、テストの目標や学習指導要領との関連、評価基準などを明記(P.13図2)。さらに、目標を具現化した子どもとのやり取りの英文も例示し、どのような英語表現が使われていればA評価なのかを判断できるようにした。そして、子どもへフィードバックする評価シートは、学習意欲を高めるものとして重視し、子どもが受け取ってうれしそうと思えるようなメダルを模したデザインにするなどの工夫をした。

『「チャレンジトーク」』によって記録する評価の材料がそろうため、評価に対する説明責任が果たせます。CCは、指導の平準化や授業準備の効率化だけでなく、授業の『ねらい』『学習活動』『学習評価』を一体化して捉えられるようにしていることが最大の特徴です(鹿嶋副主査)

エビデンスを基に各校で指導改善の方針を検討

2021年度は、中学校の新学習指導要領の全面実施に合わせてCCを改訂する予定だ。その際の課題の1つは、中学校の英語の授業での言語活動をより重点化することにある。2019年度、中学3年生に実施した英語4技能検定「GTEC」*2では、CEFR*3のA1レベル相当が82.1%に上った。

小学1年生から英語に親しみ、小・中9年間の英語学習を積み上げてきた成果だと捉えているが、まだ改善の余地があると、鹿嶋副主査は語る。

「各校がエビデンスに基づいて生徒の学習状況に応じた指導をしていることが、検定のスコアにも表れています。ただ、中学校の授業を見学すると、言語活動をより充実させることができると感じています。文法の正確さも重要ですが、言語活動を通じて学ぶことが、社会で生きて働く英語の習得につながります。CCに言語活動を盛り込むことで、それを伝えていきたいと考えています」

指導改善の方向性は、2019年度の「GTEC」の結果を踏まえてまとめた「英語力アップ『岐阜モデル』」として各校に提示。2020年度版は、前年度の内容に各校から集めた効果的な指導を加えて作成した(図3)。各校は、2020年度に実施した「GTEC」の結果を踏まえた指導改善の方針を項目に加え、実施したアクションには○を、実施して効果があったアクションには◎をつけて、年度内に報告書として提出する。「GTEC」の結果を分析しながら、どんな指導に効果があったか、効果がないものは課題は何かを、英語科の教員同士で検討し、2021年度に向けて指導を振り返るねらいがある。

小中連携の推進も指導改善のポイントだ。

「小学校の教員は、言語活動を通じて英語の音に触れさせながら、学習の定着を図る指導がとても上手です。一方、中学校の教員は、単語や文法などの正確さの指導に長じています。小・中が互いの授業を見学し合うことで、よさを吸収し合い、小・中のつながりを意識した指導ができることを期待しています」(鹿嶋副主査)

コロナ禍の影響で、授業では対話型の活動が制限されている。そこで、ICTを活用し、オンラインで学校間をつなげた学習活動も検討中だ。例えば、小学6年生が中学生に中学校の授業や部活動について質問するといった活動も、1小1中方式で小中連携を行う学校から始めれば可能ではないかと、鹿嶋副主査は考えている。

市教委でも、この1年間、学校訪問が十分にできず、各校の状況を把握した上での支援が難しかった。コロナ禍が少しでも落ち着いたなら各校を訪問したいと、鹿嶋副主査は語る。

「英語の授業では、コミュニケーションの1つとして表情を大切にしてきましたが、マスクで顔が覆われてしまい、意思の伝えにくさを感じていたと思います。だからこそ、マスクが不要になった時に、表情が見えることの素晴らしさを実感するはずです。コロナ禍のすべてをマイナスと捉えず、子どもが前向きに学びに向かえる指導を、先生方が実現できるよう支援していきたいと思っています」

*2 ベネッセが提供する、スコア型英語4技能検定。 *3 ヨーロッパ言語共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages)の略称。語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会が発表。A(基礎段階の言語使用者)、B(自立した言語使用者)、C(熟達した言語使用者)ごとに2レベル、計6レベルが設定されている。